

2019年10月15日

10・27施行の宮城県議会議員選挙立候補予定者に対する
水道事業アンケート集計結果について(コメント)

命の水を守る市民ネットワーク・みやぎ

共同代表 佐久間 敬子

同 中 嶋 信

私たち「命の水を守る市民ネットワーク・みやぎ」は宮城県が導入を検討している水道3事業の「みやぎ型管理運営方式」について、その内容とともに実施手続の拙速さ・強引さに対し不安感と危機感をもって、種々の問題提起を行ってきました。

9月2日から開始された「実施方針素案」のパブリック・コメントには、県民・県議会・受水市長村への情報開示・説明と納得・熟議が決定的に不足している状況から、知事・公営企業管理者に対しスケジュールの全面的見直し、当面のパブリック・コメントの中止・延期を申し入れました。残念ながら、この申し入れは県の受け入れるところとはなりませんでした。

現在、11月25日開催予定の県議会で実施方針に関する条例案を上程し議決するスケジュールが公表されています。11月開催の県議会がこの問題を決する重要な議会となります。

以上の状況を踏まえて、今回、10月27日投開票の宮城県議会議員選挙の立候補予定の候補者の皆さんにアンケートを実施しました。今回のアンケートは、主として「みやぎ型」と呼ばれる水道3事業の大幅な制度改変についての県民理解・議会における熟議の程度を問い、11月県議会へ条例案を上程することの賛否、議員となった場合の議案に対する賛否について、個々人の見解を問う内容になっています。

立候補予定者77人中、39人からご回答がありました。50.6%の回答率です。「県政野党」に属する皆さんからは多数の回答が寄せられましたが、他方「県政与党」に属する皆さんからはあまり回答を頂けないという結果になりました。県政の重要課題に対する周知不足が現れており十分な配慮が必要です。11月県議会の重要案件に対する対応として大変残念に考えるところです。回答結果は「県民に対しても受水市長村に対しても十分な情報公開・説明がなされていない」との回答が

69.2%、「これまで県議会では熟議がなされてこなかった」が64.1%となっています。他方、「(県民への説明あるは議会での熟議が)十分行われている」と回答した人は1人でした。

自由記述欄も含め、賛成のご意見もありましたが、総体的にこの制度に対する危惧の意識が多数示されたと考えます。また、水道事業が抱える厳しい現状に対する対策だから反対する場合は異なる対応策があることを示すべきだ、との貴重なご意見も頂きました。

私たちは、このアンケート結果を公表し、県民の皆さんに来たるべき県議会議員選挙の投票に際し参考にして頂きたいと思います。この問題は「命の水」という人権の問題であり、「県民の健康・福祉」という公衆衛生の問題です。海外では民間に運営を委ねて失敗し「再公営化」した事例が多数あります。日本は明治以来、水道事業は私企業に任せないで公営で運営してきた歴史もあります。県民の皆さん、議員となられる皆さんに以上の意味を考えて頂きたいと思います。

水道事業の抱える大きな問題、これは皆の一致するところです。ただその答えは「みやぎ型管理運営方式」しかないのでしょうか。同じ問題を他の方法で解決している市町村があります。県の水道事業の経営状態から考えると、十分に議論する時間はあります。

私たちは十分な時間を掛けて、専門家と県民の知恵を集め、持続可能な水道事業の将来を考えるべきだと思います。私たちの次の世代に貴重な水資源とこれを管理する水道事業を引き継ぐために不可欠なことです。

- 添付資料
- ① アンケートのお願い・回答用紙
 - ② アンケート集計結果まとめ
 - ③ アンケート集計表 (選挙区別、会派別)